

第6次基本計画策定専門調査会
安全・安心ワーキンググループ（第1回）議事要旨

1. 日 時 令和7年3月4日（火）9：00～11：30
2. 場 所 合同庁舎第8号館8階特別中会議室
3. 出席者

座長	小西 聖子	武蔵野大学副学長・人間科学部教授
座長代理	多賀 太	関西大学文学部総合人文学科教授
構成員	浅野 幸子	減災と男女共同参画研修推進センター共同代表 早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員
同	飯島 裕子	桜美林大学健康福祉学群准教授 ノンフィクションライター
同	小川 真理子	東京大学多様性包摂共創センター(IncluDE) ジェンダー・エクイティ推進オフィス副オフィス長 特任准教授
同	藤森 克彦	日本福祉大学福祉経営学部教授 みずほリサーチ&テクノロジーズ主席研究員

【議事】

- (1) 安全・安心ワーキング・グループの進め方について
- (2) 藤森構成員プレゼンテーション
- (3) 飯島構成員プレゼンテーション
- (4) 多賀構成員プレゼンテーション
- (5) 浅野構成員プレゼンテーション
- (6) 意見交換

【資料】

- 資料1 安全・安心ワーキング・グループの開催について
資料2 藤森構成員プレゼンテーション資料
資料3 飯島構成員プレゼンテーション資料
資料4 多賀構成員プレゼンテーション資料
資料5 浅野構成員プレゼンテーション資料

【参考資料】

- 参考資料1 女性活躍・男女共同参画に関する現状と今後の課題について
参考資料2 第5次男女共同参画基本計画の達成状況

【全体の議事の概要】

1. 安全・安心ワーキング・グループの進め方について事務局より説明し、構成員から了承を得た。
2. 各構成員よりプレゼンテーションがあった。
3. 上記を踏まえ、意見交換を行った。主な意見は後述のとおり。

【意見交換】

1. 留意すべき社会情勢・現状及び施策の基本的な方向について

- ・ 今後高齢者の単身世帯が増え、高齢男性の社会的孤立、高齢女性の貧困の問題が生じてくる。男性を主な稼ぎ手としてきた働き方や制度設計による影響であり、支え合う社会をどのように作っていくかが課題。
- ・ 高齢者に加え、氷河期世代の単身女性も困難な状況。世の中でいう活躍、出産、育児をしていないという自己肯定感の低さなどから、公的機関への相談を躊躇する。介護や子育てといったきっかけがないと、公的機関や支援とつながりづらい。
- ・ 男女共同参画の推進は、男性の利益を奪って女性に与えるというのではなく、男性の生活の質も高めるという側面を強調していく必要がある。
- ・ 男性の中での多様性にも着目する必要。いわゆる弱者に当たる男性に対し、保護や支援が行き届きにくい現状がある。男性のDVや性暴力被害者への相談支援の拡充や男性の社会的孤立に対応する居場所づくり、相談体制の整備等も重要。

2. 防災・復興分野について

- ・ 意思決定の場に女性が少ないことで、女性のニーズが認識されずに、女性が被災地や復興の過程で困難に直面している。意思決定の場への女性の参画拡大に取り組む意義を伝えていくことが重要。
- ・ 防災委員の女性比率を単に上げれば良いのではなく、被災から復興の過程にジェンダーダイバーシティの視点が含まれることが重要であり、評価指標を少し工夫することもあり得るのではないかな。
- ・ 地域づくりにおいて、ジェンダーや多様性の観点を、持続可能性や防災の観点と結びつけていくことが重要。
- ・ 能登半島地震で女性職員の派遣が進まなかった背景には、救援者が過酷な状況に置かれていたことも一因。救援者が悲惨な状況にあると、被災者の生活もその水準までしか改善されない。災害救援の在り方や質も考えていくべき。
- ・ 災害時の課題は、社会の平常時の課題を大きく顕在化させることを念頭に、災害対策を通して平常時の課題を改善していくことが重要。

以上